

西暦 (年号)	場に関する事項	関連事項等
1973 (昭和48)		11月 トレットペーパーなどの 買い置きパニック発生。 11月26日 那覇市前島の 琉海ビル建設現場で大 陥没事故。
1974 (昭和49)	3月 共同実験室二階(530㎡、53,190千円)竣工。 特殊病原不在動物実験室(SPF施設)153㎡ 34,405千円、解剖焼却室30㎡ 7,181千円、 家畜糞尿処理施設竣工。  生物学的製剤の製造中止。	2月5日 琉大で受講中、 8人の学生風の男が乱 入し比嘉照邦君が鉄 パイプで殴られ死亡。 8月1日 那覇市内の交通 緩和のため首里山川～ 県庁前間にバス専用 レーンスタート 10月17日 琉球松の大敵 マツザイセンチュウが南九州 から名護市に侵入。 12月4日 金脈問題で田 中首相辞任。 12月10日 那覇～宮古間、 那覇～八重山間の電話 自動化される。
1975 (昭和50)	行政組織規則の改正により製造室が廃止、庶 務課、調査室、鶏病室の1課2室体制となる。	4月2～4日 甲子園出場 の豊見城高校、ベスト8に 進出。 5月 伊平屋島で牛の「腰 フラ病」集団発生。そ の後、伊是名島、石垣島、 黒島、与那国島でも発生。 7月20日 沖縄国際海洋 博覧会開幕。 11月 第1回先進国首脳 会議、フランスのラングレ で開く。
1976 (昭和51)	10月 知花・上野は鼻鏡白斑症の原因線虫であ るStephanofilaria Sp.について形態学的観	「飼料の安全性の確保及 び品質の改善に関する法

西暦 (年号)	場に関する事項	関連事項等
1976 (昭和51)	<p>察を行い、既知7種と比較し、乳頭由来のものと鼻鏡由来のものは同一種であると同時に新種のStephanofilariaであると同定し、Stephanofilaria okinawaensis Ueno and Chibana 1976と命名報告した。</p>	<p>律」の大幅改正により飼料添加剤が厳しく規制される。</p> <p>2月17日 ロケット事件起こる。</p> <p>9月22日 八重山で牛流行熱発生(発生頭数576頭)</p> <p>10月10日 プロボクシングの具志堅用高、ジュニア級世界チャンピオンとなる。</p> <p>12月22日 宮古、八重山とのダイヤル電話の全国即時通話開通、NHKテレビも同時放映。</p>
1977 (昭和52)		<p>5月18日 参院本会議で「基地確保地籍明確化法」可決。</p> <p>10月「沖縄県農業振興基本計画」策定。</p> <p>11月14日 豊見城高校、第61回九州高校野球大会で優勝。</p> <p>11月18日 第1回沖縄県産業まつり開く。</p>
1978 (昭和53)	<p>重金属廃液処理施設20.6㎡ 70,000千円竣工。</p> <p>3月 県行政組織規則の改正による畜産関係機関における分掌事務の再編に伴い、中央家畜保健衛生所の病性鑑定課が廃止され、当场で病性鑑定業務を行うことになった。従来の1課2室体制を庶務課、第1研究室、第2研究室、第3研究室に改め、第1研究室において試験研究業務の調整、第2研究室において病性鑑定業務の調整を担当することになった。</p> <p>「牛の腰フラ病」の原因は、我が国で初めて発生したソテツ中毒であることが解明された。</p>	<p>3月12日 第1回県功労賞に屋良朝苗ら10名表彰。</p> <p>4月 八重山群島の石垣島、黒島、与那国島の放牧子牛25頭にデルマトフィシ症発生。</p> <p>5月20日 成田空港開港式。</p> <p>7月 農林省を農林水産省</p> <p>7月30日 県下一斉に交</p>

西暦 (年号)	場に関する事項	関連事項等
1978 (昭和53)	<p>牧野に発生している牛の慢性皮膚炎から我が国で初めてDermatophilus congolensisを分離し、国内で初めての「牛のデルマトフィルス症」の確認となる。</p> <p>豚の慢性胃腸炎からSalmonella Typhisuis分離。</p>	<p>通方法の変更を実施、午前6時を期して車は右側から左側通行へ。</p> <p>10月1日現在、人口107万9729人と県統計課発表。</p> <p>10月1日 摩文仁の沖縄平和祈念堂開堂式。</p>
1979 (昭和54)	<p>4月 当場の試験結果を採用した沖縄糸状虫症清浄化対策事業が八重山、宮古で開始された。</p> <p>10月 各室の事務分掌規定が改正。</p>	<p>1月13～14日 初の国立大学共通1次試験実施</p> <p>10月22日 県下の電話加入20万台に達す。明治43年の第1号以来70年間で県民5人に1台の割合</p> <p>10月26日 国連WHO、天然痘根絶を宣言。</p>
1980 (昭和55)		<p>1月7日 リ連、国連での77カ国撤退決議案に拒否権。</p> <p>5月24日 日本、モスクワオリンピック不参加決定。</p> <p>8月5日 沖縄、長寿県日本一となる。</p> <p>12月 日本、自動車生産台数世界一を記録。</p>
1981 (昭和56)		<p>1～3月 山形、岩手、茨城の3県5農家で我が国で初めてオースキー病が発生。</p> <p>11月13日 国頭村与那で発見の世界的珍鳥は和名をヤンバルウキ、学名をウルス・オキナエと命名。新種の発見は約1世紀ぶり。</p>
1982 (昭和57)	<p>水質汚濁防止法の改正に伴い、基準に適合しなくなった、大中動物舎及び小動物舎等が新築</p>	<p>2月25日 那覇市内のと畜場で豚の炭疽が確認</p>

西暦 (年号)	場に関する事項	関連事項等
1982 (昭和57)	<p>された。289㎡ 36,000千円。 畜産総合対策事業の導入による衛生関係事業、家畜伝染病予防事業、沖縄牧野ダニ撲滅対策事業において精密検査業務担当。</p>	<p>された。 8月18日 西表島の崎山湾で直径6.4mの世界最大級の「サミソコ」発見。</p>
1983 (昭和58)	<p>6月 県内でStreptococcus suis type II(R群)によるレンサ球菌症の発生を確認。</p>	<p>1月14日 宮古上野村議会は酒の回し飲み「オトリー」を廃止決議。 8月 県内のと畜場で牛白血病が沖縄県で初めて確認された。 11月9日 泡盛の古酒と新酒の科学的判別法を沖縄国税事務所鑑定室が確立したと発表。</p>
1984 (昭和59)	<p>死亡したアヒルの盲腸内容物、池の水及び泥からClostridium botulinum type C型菌分離。  肉用牛の血色素尿及び流産胎児からLeptospira菌分離。</p>	<p>1月25日 国頭村で新種の昆虫を発見。 ヤバルテガコガネと命名。 3月 県家畜防疫対策要領により県外から導入される豚についてオーエスキー病の検査が義務化された。 4月20日 英国は1997年に香港を中国に返還と発表。 5月10日 江崎ケリコ事件で犯人グループは毒物混入を通告。 9月14日 平飼い肉用アヒルの大量死発生。 10月 国頭郡で肉用牛の異常産多発。</p>
1985 (昭和60)	<p>共同実験室の増築（生化学・衛生昆虫実験施設340㎡、51,656千円）が竣工。</p>	<p>4月28日 宮古島で第1回トライソン大会開催。</p>

西暦 (年号)	場に関する事項	関連事項等
1985 (昭和60)		<p>8月12日 日航123便ジャンボ機が羽田空港から大阪へ向かう途中、群馬県上野村の山中に墜落し520人死亡、4人が救助された。</p> <p>11月11～20日 県新庁舎の建設のため壺川仮庁舎へ5部51課が移転。</p> <p>11月頃～翌年6月 南九州地方を中心に牛の流行性異常産多発。</p> <p>12月8日 第1回NAHA7ツ大会開催。</p>
1986 (昭和61)	<p>4月 沖縄本島南部の肥育豚の急死例から Sallmonella Typhimuriumを純粹に分離し、県内で初めて本菌によるサルモネラ症を報告。</p> <p>国立国会図書館に申し出て、年報の国際標準逐次刊行物番号(Internatinonal Standard Serial Number)ISSN 0911-5137の割り当てを受ける。</p>	<p>1月29日 米国宇宙連絡船スペースシャトル、チャレンジャー打上げ直後に爆発、7人の乗組員死亡。</p> <p>3月1日 日の丸、君が代で高校の卒業式、一部混乱。</p> <p>3～4月 県内で牛のチュウザン病発生。</p> <p>4月1日 県立芸術大学、首里に開学。</p> <p>4月26日 リ連ウライ付のチェルノブイリ原子力発電所で炉心溶融事故発生。</p> <p>10月4日 名護市及び本部町で豚コレラが21年ぶりに発生し、本島内にまん延。発生頭数:2812頭。</p> <p>10月 豚の異常産を伴うレプトスピラ病の発生。英国で牛海綿状脳症(BSE)発生。</p>

西暦 (年号)	場に関する事項	関連事項等
1987 (昭和62)	<p>未吸血幼オウシマダニを用いてノックダウン法により各種殺ダニ剤に対する感受性試験を行い、国内で初めて殺ダニ剤抵抗性ダニの出現を証明した。</p>	<p>多良間島におけるオウシマダニの清浄化達成。 9月20～23日 第42回国民体育大会(海邦国体)夏季大会を開催。 10月8日 南伸沖繩自動車道開通(31.4km)。これで北部25.9kmとあわせて57.3kmとなる。 10月25～30日 第42回国民体育大会(海邦国体)秋期大会を開催。 11月 今帰仁村、名護市、伊江村、東風平町、玉城村、平良市でバクテリア病発生 12月 県総人口は、3月末日現在121万1486人、世帯数35万6801。 黒島で従来のクマホスを用いたダニ駆除の効率が低下し、ダニの清浄化が極めて困難となる。</p>
1988 (昭和63)	<p>1月 12カ月齢の黒毛和腫肥育牛にHaemophilus somnus感染症が県内で初めて確認された。 未吸血幼オウシマダニより抽出した精製抗原を用いたラテックス凝集反応による、牧場におけるオウシマダニ清浄化判定技術の確立。 有機燐系及びカーバメイト系殺ダニ剤に抵抗性のあるダニに対してピレスロイド系殺ダニ剤が感受性が高いことが判明した。</p>	<p>5月15日 アガニスタンと和平協定調印、ソ連軍が撤退開始。 6月 リアル疑惑で宮沢蔵相、真藤NTT会長辞任。</p>
1989 (平成元)	<p>2月26日 金武町でアイノウイルスによる牛の異常産を県内で初めて確認した。  県内で初めて牛からブルータングウイルスを分離した。</p>	<p>1月7日 昭和天皇ご逝去、平成へ。 4月1日 消費税導入。 5～6月の初夏、八重山群島で牛の流行熱が多発。</p>

西暦 (年号)	場に関する事項	関連事項等
1989 (平成元)		<p>12月2日 米ソ首脳がマルタで会談、冷戦時代に終止符。</p> <p>地球環境問題が国際課題に、フロン全廃へ。</p>
1990 (平成2)	<p>小浜島でBabesia bovisによる牛のバベシア病の発生を確認。</p> <p>気密サイロで作られたヘイレージを給与された牛に銅欠乏症の発生を確認、原因として高温下でのCu回収率の低下が示唆された。</p> <p>10月 沖縄本島北部に県外から導入されたバイカジカが慢性下痢を呈し、腸及び便からMycobacterium paratuberculosisを分離、ヨーネ病と診断、本例は国内で最初の「鹿のヨーネ病」の発生報告となった。</p>	<p>5月31日 「豚の県外導入の中止について」(県農林水産部長通知)に基づき、当分の間、県外導入を中止。</p> <p>8月2日 イク、ケートに侵攻</p> <p>8月21日 沖水甲子園で初の準優勝</p> <p>8月23日 世界のウチナーンチュ大会開催。</p> <p>10月 株暴落、バブル経済に亀裂。</p> <p>10月3日 東西トイ統一。</p> <p>11月18日 12年ぶりに革新知事(大田昌秀)誕生。</p>
1991 (平成3)	<p>5月 大里村で呼吸器症状を呈して斃死が多発した採卵鶏の気管と直腸内容からニューカッスル病ウイルスを分離し、ニューカッスル病の発生を確認した。</p>	<p>2月 「湾岸」へ90億ドル支援。</p> <p>4月 牛肉の貿易自由化の完全実施。</p> <p>5月 NDが21年ぶりに大里村で発生。 発生羽数：56,608羽</p> <p>6月3日 雲仙噴火で死者多数。</p> <p>8月19日 ソ連邦解体。</p> <p>8月20日 女性副知事(尚弘子)誕生。</p> <p>11月5日 伊江朝雄参院議員が県出身初の大臣となる。</p>

西暦 (年号)	場に関する事項	関連事項等
1992 (平成4)	<p>「家畜衛生試験場試験研究基本計画」を場内で作成。</p> <p>4月 関節の浮腫および跛行を呈する肥育牛がビタミンAおよびE欠乏症であることを確認。豚レプトスピラ病の不活化ワクチンを試作し、有効性を確認したが、課題も残った。</p>	<p>3月1日 渡嘉敷村、鯨海峡宣言。</p> <p>11月2日 首里城公園開園。</p>
1993 (平成5)	<p>5月 中国産の烏骨鶏卵から孵化した雛の大量死亡事例からSallmonella Pullorumを分離し、ひな白痢の発生を確認。</p> <p>DNAプローブを用いた毒素原性大腸菌のエンテロトキシン遺伝子の迅速検出法は診断において非常に有用であることを確認。</p> <p>病理組織学的検査において免疫組織化学的検査法の一つである酵素抗体法(SAB法)の有用性が報告された。</p> <p>豚の生殖器・呼吸器症候群(PRRS)の血清疫学調査により、本病の県内への侵入は1986年5月以降であると推定された。</p>	<p>4月23日 全国植樹祭に天皇・皇后両陛下が歴代天皇として初来沖。</p> <p>11月24日 那覇市のとよみ大橋開通。</p> <p>12月16日 先島で民放テレビ放送開始。</p>
1995 (平成7)	<p>2月 土壌、飼料中の全Cu及び有効態Cu含量が低いことと吸収阻害要因の併存下における牛の銅欠乏症が八重山で確認された。</p> <p>4月 行政組織規則改正により課・室制が廃止され、定員16名体制から11名体制に移行。</p> <p>Vero毒素産生性大腸菌(VTEC)のプラスミドプロファイルを疫学的解析や感染経路の解明に応用。</p>	<p>国内で毒素原性大腸菌O-157による集団食中毒が多発し、社会問題となる。</p> <p>1月11日 又吉栄喜「豚の報い」で芥川賞受賞。</p> <p>1月17日 阪神大震災発。</p> <p>3月20日 杣山真理教による地下鉄サリン事件発生。</p> <p>6月23日 平和の礎完成。</p>
1996 (平成8)	<p>牛・豚由来Vero毒素産生性大腸菌(VTEC)の抗菌薬感受性試験結果および豚の大腸菌性腸管毒血症の病理学的所見について報告された。</p>	<p>3月 英国政府が、BSEとヒトの変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(V-CJD)との関連を示唆する声明を発表し、世界的な騒動となる。</p>



西暦 (年号)	場に関する事項	関連事項等
1996 (平成8)		<p>4月12日 日米間で普天間基地全面返還合意。</p> <p>9月8日 基地の整理縮小、日米地位協定見直しで全国初の県民投票。</p>
1997 (平成9)	<p>4月 口蹄疫に係る病性鑑定緊急対策班の設置。</p> <p>1992～1998年に分離されたSallmonellaの血清型、薬剤感受性およびプラスミドプロファイルについて報告された。</p>	<p>3月11日 全日本トイアソシ宮古島大会が日本生活文化大賞に決定。</p> <p>3月19日 台湾で口蹄疫発生。</p> <p>12月 香港で鳥インフルエンザA型(H5N1)が発生し、人への感染並びに死亡報道があった。</p>
1998 (平成10)	<p>複数の病原体が関与したと思われる子豚の肺炎材料で、免疫組織化学的方法により複合感染病の実態を明らかにした。</p> <p>エンドファイトが感染した輸入乾草を給与された牛にライグラスタッカーを疑う疾病の発生を確認した。</p>	<p>11月15日 県知事選で稲嶺恵一、大田知事を破って初当選。</p>
1999 (平成11)	<p>RT-PCR法を用いたアカバネウイルスScDNAの制限酵素切断法によりアカバネウイルスを4つのグループに分類した。</p> <p>県の北部離島で自給のロールペール乾草を給与された牛に銅欠乏症の発生を確認。</p>	<p>4月4日 沖尚高選抜初優勝。</p> <p>4月12日 八重山地域のオウシマダニ清浄化達成及び同地域からの牛の移動制限解除。</p> <p>国は農業基本法を38年ぶりに改正し、「食糧・農業・農村基本法」を公布、関連して環境3法も公布された。</p> <p>マレーシアでニッパウイルス感染症が豚に発生し、人への感染・死亡が問題となる</p>

西暦 (年号)	場に関する事項	関連事項等
2000 (平成12)	<p>慢性呼吸器疾病と発育不良を呈した子豚群において免疫組織化学的手法と電子顕微鏡学的検査により豚サーコウイルス2型(PCV2型)を確認し、本ウイルスが関与した離乳後多臓器性発育不良症候群(PMWS)であることを明らかにした。</p> <p>豚の腸管毒血症由来腸管毒血症性大腸菌(ETEEC)の細菌学的性状、薬剤耐性および分子疫学解析について報告された。</p>	<p>4月2日 韓国で口蹄疫発生。 4月4日 宮崎県で口蹄疫発生(国内発生は92年ぶり)。 5月11日 北海道で口蹄疫発生。</p>
2001 (平成13)	<p>4月 組織定数1名削減により10名体制に移行。牛の異常産関連ウイルスの抗体調査とウイルス分離を実施し、県内での本ウイルスの活動実態を解明した。</p> <p>牛のエンドファイト中毒について診断技術を確認するとともに既定の危険値以下でも発症する危険性があることを指摘した。</p>	<p>国の省庁再編により、畜産局は畜産部となる。 2月21日 英国で口蹄疫発生。 4月 国立の研究機関が独立行政法人へ移行。 9月23日 千葉県で牛海綿状脳症(BSE)の発生が国内で初めて確認された。</p>
2002 (平成14)	<p>3月 牛海面状脳症(BSE)のELISA検査機器が整備される。 8月7日 BSEサーベイランスでELISA検査開始。</p>	<p>3月29日 新沖縄振興法が成立、4月1日施行。 7月29日 普天間代替「埋め立て」で政府、県、名護市が基本合意。</p>